

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧  
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 勝山市立北郷小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中高一貫教育  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

住所 〒 911-0054  
福井県勝山市北郷町東野13-25

E-mail : kitagousyo@edu.city.katsuyama.fukui.jp

Website : \_\_\_\_\_

児童生徒数：男子 50 名 女子 46 名 合計 96 名  
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

## 4. 活動内容

### (1) 1年間の主な活動内容について

#### ○学校の教育目標

健康なところとからだをもち、楽しく学び合う子を育みます。

#### ○学校の教育目標とESDの関わり

地域の自然や人とのつながり、関わり合いを中心に教材を開発し、それらを活用した教育活動を行うことにより、「地域、自然、人とのつながりに関心を持ち、協力し合い、今後のよりよいあり方を考え、追求していく子」の育成を目指す。

#### ○実践報告（授業のねらい、具体的な例）

学習を進めるにあたって、次の3つの大きな柱にそって様々な活動を行う。

##### 〈地域とのつながり〉

- ・地域を知る学習 ・地域のお宝探し
- ・地域の伝統的な織物産業や食べ物（水ようかん）

##### 〈自然とのつながり〉

- ・身近な生き物や植物と触れ合い
- ・学校畑で農作物を栽培し、収穫した野菜で料理（とうふ作り）
- ・地域に生息する生き物（ホタル・赤トンボ、バイカモ）

##### 〈人とのつながり〉

- ・地域のお年寄りや保育園児との交流
- ・福祉体験（アイマスク・車椅子・シニア）

#### ○1年生「いきものとなかよし」

1. 学校周辺の生き物を探す。
2. 見つけた虫をつかまえて観察し、分かったことを書く。
3. 本などで飼い方を学習し、飼ってみる。
4. 飼ってみて、観察したことを書く。

#### 児童・生徒の態度の変化（子どもの感想を引用）

「ショウリョウバッタは、エノコログサの葉っぱをよく食べていた。」

「ショウリョウバッタが、りんごをあまり食べなかった。」

「コオロギは、おとなしいと思っていたけど、煮干しをひっぱりあって食べたりして、けっこうこわい。」

#### 実践して学び、考えさせられたこと

・かわいいと思っていた虫が、けっこうがつついてえさを食べる姿を初めて見たようで、驚いていた。身近な虫がえさを食べる様子（口の様子）がよく観察できて、よい機会になった。

#### ○2年生「町たんけん」

1. 町たんけんパート1  
行きたい場所や施設、そこでやってみたいことを話し合て決め、探検する。
2. 町たんけんパート2  
会いたい人、聞きたいことを話し合って決め、インタビューする。
3. 町たんけんを振り返り、分かったことや思ったことをまとめて発表する。  
（実りの学習発表会）

児童・生徒の態度の変化（子どもの感想を引用）

「神社の階段でじゃんけんをしてグリコで遊んだことが楽しかった。」  
「川にたくさん魚がいてびっくりした。また、みんなと遊びに行きたい。」  
「さんぱつやさんはおきやくさんがよろこんでくれるようにがんばっていることが分かった。」  
「40けんも家をたてるなんで、だいくさんはすごいな。  
町探検を通して地域の魅力を知り、地域への愛着を深めることができた。」

実践して学び、考えさせられたこと

・みんなで実際に見たり、触れたり、遊んだりするなどの体験を共有することで、地域の魅力を知り、愛着を深めることが出来ることを実感した。  
・低学年でも、インタビューの内容を考え、練習し、メモをとりながら聞く体験を重ねることで、インタビューする力がどんどんついてくることを実感した。

○3年生「勝山のおたからさがし」

1. 勝山市内で興味のある事गरを話し合い、計画を立てる。
2. 見学に出かけ、分かったことをまとめる。
3. 野菜（妙金なす、里芋）を育て収穫し、地域の方に作り方を教えてもらう。
4. 実りの学習発表会で、地域の方に発表をする。
5. 学習したことを生かして勝山の伝統食である「ぼっかけ」を作る。

児童・生徒の態度の変化（子どもの感想を引用）

「始めてオリジナルぼっかけを作りました。たまごをうすく焼いて勝山のキャラクターであるチャマゴンの形にしました。恐竜らしさを料理の中に入れてよかったです。」  
「1学期に見学したラブリー牧場の牛乳とソフトクリームを使いました。きょうりゅうの骨をチョコレートで作り、コーンフレークの下にかくして発掘できるようにした。えいようしの先生やぼっかけ作りの会長さんに作り方を教えてもらいました。」

実践して学び、考えさせられたこと

勝山市で、興味のあるところを見学することで、新しく知るだけでなく地域のよさを再確認することができた。また、体験や見学を通していろいろな方と触れ合うことができたことも意味深い。また、見学や体験したことを様々な方法でまとめることができた。

○4年生「だれもが関わり合うために」

1. 障害について知る。  
障害について調べ、正しく知る。障害を持つ方からお話を聞く。
2. 様々な立場の体験をする。  
アイマスク、車いす、点字、インスタントシニア体験など。
3. 障害を持つ方と交流する。
4. だれもが関わり合うために自分たちができることを考える。

児童・生徒の態度の変化（子どもの感想を引用）

「目の不自由な方も、ぼくたちと変わらない生活をしていることが分かりました。障害があるとかわいそうだと思っていたけどちがいました。」  
「だれでも、できることとできないこともあるから、助け合うことが大切だと思いました。」  
「みんなが優しい心をもって生活できるようになってほしいです。」  
福祉体験や交流を通して、障害者に対しての誤解や偏見が少なくなった。  
学級などで友だちに優しく声をかけたり、仕事を手伝ったりすることが増えた。

実践して学び、考えさせられたこと

\* 障害についての理解を深め、誤解や偏見を持たずに人と関わることの大切さを学ぶことができたと思う。また、学習を進めていく中で、障害の有無に関わらず、相手の事を考えて自分に何が出来るかを考え始めたことが印象的だった。

○5年生「赤トンボ調査隊」

1. 地域の田んぼへ行き、赤トンボの羽化殻調査を行う。
2. 赤トンボのマーキング調査を行う。
3. 赤トンボの電線調査を行う。
4. 赤トンボについて調査したことの発表をする。

児童・生徒の態度の変化（子どもの感想を引用）

「赤トンボの調査をして、新しいことが分かったのでとてもうれしかったです。これからも続けていきたいです。」

「もっと新しいことが分かるといいなと思いました。」

「マーキングは、はじめは難しいと思っていたけど、なれると簡単にできるようになりました。楽しかったです。」

実践して学び、考えさせられたこと

教科書や資料から知識を得たのではなく、調査を通して羽化する時期や時間帯などを学習したことで、児童達は赤トンボに対する興味がとても高くなった。また、児童から、「どうしてこのあたりはトンボが少ないのだろう」、「どうして今日はたくさんとんでいるのかな」、などという疑問や、それに対する答えなどのやりとりがよく見られた。羽化したてのトンボは柔らかいので、扱いを丁寧にするように気を配るようにもなり、生命の大切さにも触れることができた。

○6年生「勝山の風景を守ろう」

1. オオキンケイギク、セイタカアワダチソウについて知る。
2. 地域のセイタカアワダチソウの分布地を調べて、地図に表す。
3. 外来種の駆除活動をする。  
小中連携でオオキンケイギクとセイタカアワダチソウを1回ずつ。
4. 身近なその他の外来種について調べ、自分たちにできることを考える。
5. 学習発表会で発表する。

児童・生徒の態度の変化（子どもの感想を引用）

「セイタカアワダチソウが大きくて、びっくりした。根がしっかり張っていて駆除するのが大変だった。」

「ぼくたちが始めた梅花藻の保全活動が続いていて嬉しい。でも、コカナダモ（外来種）は、少なくなってきたけれど、まだまだ多い。」

「勝山の昔からの風景を未来に残していきたい。」

地域の自然に対する興味関心が高まり、自分たちが地域のためにできることを考え、実行しようとする態度が見られるようになった。

実践して学び、考えさせられたこと

\* 今まで気づけなかった地域の環境に興味を持ち、見方や考え方が変わった。児童が主体的に活動を進めていくためには、地域の抱える課題と自分たちの活動の目標を明確にすることが大切である。

\* 学習発表会で、地域の人や下級生に自分たちの活動や考えを広めることで、自分たちの活動により自信を持つことができたので、活動のまとめに発信する機会をきちんと設けるようにしていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）